

名古屋大学 指定国立大学法人構想概要

～世界屈指の研究大学を目指して～



NAGOYA UNIVERSITY

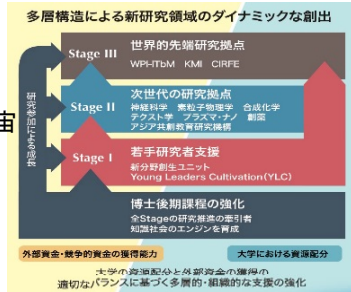


世界屈指の研究成果を生み出す研究大学へ

01

世界的に卓越した研究拠点の確立

- 重点分野として「WPI拠点が先導する化学・生物学融合研究」「未来エレクトロニクス研究」「素粒子・宇宙物理学」「超高齢社会を支える医学・生命科学研究」
- 若手や次世代を担う研究拠点候補を重点的に育成・支援する「研究の進展に合わせた多層的なシステム」の構築
 - 最先端国際研究ユニット(WPI-next)の拡大 (6ユニットへ)
 - 若手育成プログラム (Young Leaders Cultivation) の拡大 (50名へ)
 - 若手新分野創成研究ユニットの拡大 (16ユニットへ) 等



02

知識基盤社会をリードする卓越した博士人材の育成



- 博士課程教育の高度化と質保証に向けた全学的プラットフォーム「博士課程教育推進機構」の設置
 - トランスファラブル・スキルの涵養 等
- 最先端研究拠点等と連携した博士課程教育プログラムの提供
 - 卓越大学院の設置 等
- 国際研究ネットワークと連動したジョイント・ディグリー実施 (20ユニット)
- 産学共創教育(Sharing Education)の推進
- 博士後期課程学生の経済支援・キャリアパスの拡大
 - 基金を活用した奨学金の創設 等

世界屈指の研究大学へ



世界から人が集まる国際的なキャンパスと海外展開

03

- 国際的に魅力ある教育プログラムの充実 (3,200名の留学生受入へ)
 - 大学院授業の英語化の推進
 - G30プログラムによる留学生受け入れ枠の拡大 等
- G30プログラムの日本人学生への拡大
- ジョイント・ディグリー推進につながる国際大学間コンソーシアムを主導
- アジアの研究者と世界の課題解決に挑む「アジア共創教育研究機構」の活動推進
- 海外への情報発信機能の強化に向けた広報体制の拡充

04

社会と共に躍進する名古屋大学



- イノベーションの創出、実践的人材育成、産業界への貢献等に向けた研究マネジメント体制の強化
- 「組織」対「組織」の本格的な産学共同研究の推進
 - 共同研究費用負担の適正化に対応する「指定共同研究」の推進
 - 産学共同研究講座・部門の拡充 (50へ) 等
- 産学官共創によるオープンイノベーション研究開発拠点の整備
- 大学発ベンチャー企業の創出による産業界への貢献
 - スタートアップ支援、アントレプレナーシップ教育の充実 等



機動的な改革を支えるシアド・ガバナンスの構築

05

- 機動的な施策提示・審議・執行が可能な体制構築
 - 統括理事(プロボスト)の設置
 - 学内の多様な意見の反映に向けた教育研究評議会の見直し 等
- 戦略的で開かれた教員選考の実施
- 男女共同参画の推進 (女性教員比率を30%へ)
- 東海国立大学機構の「経営と教学の分離」による機動的な意思決定

06

経営資源の好循環による財務基盤の強化



- 総長直轄組織であるDevelopment Officeを中心としたファンドレイジングの機能強化
 - 株式等の評価性資産の寄附受入の強化
 - 同窓会海外支部を通じた外国人卒業生へのファンドレイジングの強化 等
- 財源の多様化による財務基盤の強化
 - 収益事業強化 (大学保有不動産の活用、エクステンション・プログラム開設 等)



新たなマルチ・キャンパスシステムの樹立による持続的発展

07

- 参加大学の自律性を尊重しながらも、地域の国立大学間の壁を取り払う新たなマルチ・キャンパスシステム (東海国立大学機構) の構築
- 基盤構築に向けた大学連携の推進
 - 個々の大学の持つ強みに応じた研究拠点形成、教育研究機能強化、公的資金・外部資金の獲得増、国際競争力強化 等